

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)Walkプロジェクト新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質						4.1			
Q1 室内環境			0.39		-	3.7			
1 音環境		4.0	0.15	-	-	4.0			
1.1 室内騒音レベル	40dB	4.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	T-2以上	5.0	0.61	-	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.39	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音	天井:岩綿吸音板、床:カーペット	4.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		3.4	0.35	-	-	3.4			
2.1 室温制御		3.8	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能	窓システム SC:0.36、U:2.82、面積:約6400㎡ 外壁その他 U:0.81、面積:約20800㎡	5.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性	ペリメータとインテリア別に空調ゾーニングかつ、冷暖の選択が自由	4.0	0.37	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-	3.8			
3.1 昼光利用		1.8	0.31	-	-				
1 昼光率		1.0	0.59	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.41	-	-				
3.2 グレア対策		5.0	0.28	-	-				
1 昼光制御	自動制御ブラインド(太陽光追尾システム)	5.0	1.00	-	-				
3.3 照度	全般照明方式 500lx	4.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	次世代人検知センサーによる照明の1灯制御(任意評定)	5.0	0.26	-	-				
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	3.7			
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	天井裏を含め仕上げ材はF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		2.6	0.30	-	-				
1 換気量	外気取入量30[CMH/人]以上	4.0	0.34	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.34	-	-				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	BEMSをクラウド型にして監視	5.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	喫煙ブースにより十分な対策	5.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	4.3			
1 機能性		4.0	0.40	-	-	4.0			
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.32	-	-				
2 高度情報通信設備対応	NTT、Qnetの2社引込予定	4.0	0.32	-	-				
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準に則った計画	4.0	0.37	-	-				
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	天井高2.8m以上	4.0	0.32	-	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.32	-	-				
3 内装計画	コンセプト・機能・照明計画・パースについて配慮	5.0	0.36	-	-				
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	内装仕上げは防汚性の高い仕上げ材 床面は水使用洗浄可能かつ、大きく異なる床材は未接近 ホコリの溜まりにくい設計 風除室の1、2次扉間は1m以上 外装は水の溜まらない配慮かつ、防鳥対策、防錆対策 外構等動線は極力段差無し	5.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	十分なスペースの清掃用具室と管理倉庫を設置 フロアごとに掃除用具室、流しを設置 洗濯機設置スペースをB3階に確保 共用部通路30m程度の直径円にコンセント設置 屋上にゴンドラ設置 清掃用の適度な照度を設定 共用部から維持管理可能 システム天井採用	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		4.6	0.30	-	-	4.6			
2.1 耐震・免震・制震・制振		5.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	免震により1.5倍	5.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	免震構造	5.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		4.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	カーテンウォール「テラコッタPC打込」:65年	5.0	0.20	-	-				

	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床「タイルカーペット」:20年 壁「ビニルクロス」:20年 天井「合成樹脂エマルジョンペイント」:20年	5.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出・厨房・浴室のダクトはステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板を採用	5.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水「VLP」:B 給湯「SUS」:C 雑排水「VP」:B	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性			4.4	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	T-BC ControllerにてBCP対応かつ、吊配管	5.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型器具採用 地下ビット設計 水槽二基分離 雨水・雑排水利用 受水槽に非常用給水栓	5.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	非常用発電設備 電源設備は屋上設置 移動式電源車接続盤	4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段多様化 NTT、QTnetの2社引込予定 MDF等は屋上設置	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			4.5	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.02m	5.0	0.58	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.13	4.0	0.42	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
				4900N/m ²			
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	将来用スペース確保かつ、システム天井により仕上げ材を痛めることなく修繕・更新可能	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック、システム天井を採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック、システム天井を採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上にバックアップスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
				福岡市景観計画への配慮 緑化計画にて周辺環境との繋がりを創出 日照条件へ対応した植栽選定 食餌木の導入 灌水設備の配置			
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
				建物のまちなみへの調和 植栽による良好な景観形成 視点場からの良好な景観形成 丸柱緑化により歩行者目線に潤いのある空間を形成			
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50	-	-	
				複数の広場提供による地域貢献 建物内外を連関させる緑化空間の形成 ITV(防犯カメラ)の設置 様々なイベント企画によるエリアの活性化			
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50	-	-	
				歩行空間へ風を導く配慮 日陰の形成 舗装面積の縮小 壁面緑化 空調室外機のほとんどを屋上設置 高温排熱の放出部を設置しない			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI][BPIm] = 0.95	3.2	0.18	-	3.2
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.53	5.0	0.51	-	5.0
4 効率的運用				4.5	0.20	-	4.5
集合住宅以外の評価				4.5	1.00	-	
4.1	モニタリング	BEMS導入	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	クラウド型エネルギー管理サービス(EM)の体制	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.2
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
				節水型器具採用			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
				雨水・雑排水利用			
1	雨水利用システム導入の有無		4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	福岡市再生水利用下水道事業に関する条例に基づき、再生水を引込む計画	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5
2.1 材料使用量の削減			5.0	0.11	-	-	
				鉄骨強度F=355以上 BCP使用 鉄筋定着部へガス圧接・機械式接手を採用			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
				再生クラッシュラン			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
				ボード、ビニル床材、タイルカーペット			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
				OAフロア、LGS工法			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.4	0.20	-	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火設備(窒素ガス)	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	セラミライトエコ等	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	

LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 = 61%	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器不使用	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	行政指導はないが、雨水利用している	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置場 立体および、機械式駐車場 荷捌き用駐車スペース 駐車場導入路を広く確保 急速充電対応、洗車スペース等	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」一部満たす 広告物なし	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	セレーン化(のこぎり型)された外装により光の反射を抑える	4.0	0.30	-	-	